

サンゴめり絵 学習指導要領との対応		
学年	教科	学習内容
小学校1/2年	図画工作	A 表現 (1) 材料を基に造形遊びをする活動を通して、次の事項を指導する。 ア 身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に思い付けてつくること。 イ 感覚や気持ちを生きながら楽しくつくること。
小学校3/4年	図画工作	A 表現 (1) 材料や場所などを基に造形遊びをする活動を通して、次の事項を指導する。 ア 身近な材料や場所などを基に発想してつくること。
小学校5/6年	図画工作	A 表現 (2) 感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことを絵や立体、工作に表す活動を通して、次の事項を指導する。 ア 感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことから、表したいことを見つけて表すこと。
小学校1/2年	国語	C 読むこと (1) 読むことのできる能力を育てるため、次の事項について指導する。 カ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。
小学校3/4年	国語	C 読むこと (1) 読むことのできる能力を育てるため、次の事項について指導する。 カ 目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。
小学校5/6年	国語	C 読むこと (1) 読むことのできる能力を育てるため、次の事項について指導する。 カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。
小学校3年	理科	B 生命・地球 (2) 身近な自然の観察 身の回りの生物の様子を調べ、生物とその周辺の環境との関係についての考えをもつことができるようにする。 ア 生物は、色、形、大きさなどの姿が違うこと。 イ 生物は、その周辺の環境とかかわって生きていること。
小学校6年	理科	B 生命・地球 (3) 生物と環境 動物や植物の生活を観察したり、資料を活用したりして調べ、生物と環境のかかわりについての考えをもつことができるようにする。 ア 生物は、水及び空気を通して周囲の環境とかかわって生きていること。 イ 生物の間には、食う食われるという関係があること。 【参考】指導資料には以下の記述があります。 生物と環境のかかわりについて興味・関心をもって追究する活動を通して、生物と環境のかかわりを推論する能力を育てるとともに、それらについての理解を図り、環境を保全する態度を育て、生物と環境のかかわりについての見方や考え方もつくるようにすることがねらいである。
中学校	理科(第2分野)	(3) 動物の生活と生物の変遷 動物などについての観察、実験を通して、動物の体のつくりと働きを理解させ、動物の生活と種類についての認識を深めるとともに、生物の変遷について理解させる。 ウ 動物の仲間 (ア) 脊椎動物の仲間 脊椎動物の観察記録に基づいて、体のつくりや子の生まれ方などの特徴を比較、整理し、脊椎動物が幾つかの仲間に分類できることを見いだすこと。 (イ) 無脊椎動物の仲間 無脊椎動物の観察などを行い、その観察記録に基づいて、それらの動物の特徴を見いだすこと。
中学校	理科(第2分野)	(7) 自然と人間 自然環境を調べ、自然界における生物相互の関係や自然界のつり合いについて理解させるとともに、自然と人間のかかわり方について認識を深め、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察し判断する態度を養う。 ア 生物と環境 (ア) 自然界のつり合い 微生物の働きを調べ、植物、動物及び微生物を栄養の面から相互に関連付けてとらえるとともに、自然界では、これらの生物がつり合いを保って生活していることを見いだすこと。 (イ) 自然環境の調査と環境保全 身近な自然環境について調べ、様々な要因が自然界のつり合いに影響していることを理解するとともに、自然環境を保全することの重要性を認識すること。 イ 自然の恵みと災害 (ア) 自然の恵みと災害 自然がもたらす恵みと災害などについて調べ、これらを多面的、総合的にとらえて、自然と人間のかかわり方について考察すること。 ウ 自然環境の保全と科学技術の利用 (ア) 自然環境の保全と科学技術の利用 自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察し、持続可能な社会をつくることを認識すること。
小・中学校	総合的な学習の時間	